

千葉県生涯学習審議会第3回千葉県子どもの読書部会議事録

令和2年1月23日(木)

午前10時～午前11時

千葉県教育会館608会議室

出席委員(敬称略五十音順)

式場 敬子 田中 美季 田村 悦智子 望戸 千恵美

出席協力員(敬称略五十音順)

金子 慈美 齋藤 洋子 高桑 弥須子 牧野 千恵

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長	古泉 弘志
主幹兼学校・家庭・地域連携室長	栗芝 博
社会教育振興室 社会教育班社会教育主事兼班長	小泉 憲治
同	社会教育主事 添田 拓也
同	主査 垣屋 和利
同	主査 俵 大樹
県立中央図書館長	榎本 隆二
同 読書推進課長	田中 雅美

1 開 会

2 あいさつ

3 部会長あいさつ

4 報 告 (1) 千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)(案)について

議 長 それでは、議長を務めさせていただきます。

報告(1)千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)(案)のパブリックコメントに寄せられた意見への対応について、事務局から願います。

事務局 『千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)(案)』に関する意見募集の結果について」の資料をご覧いただきたい。意見募集、パブリックコメントは令和元年12月20日から令和2年1月8日まで行われた。この期間に6名から21件の意見をいただいた。提出された主な内容であるが、大きく4つに分けている。第三次計画

の分析、基本理念、具体的な取組、そして推進計画全体に関する意見についてである。意見の概要と県の考え方について報告する。

まず、第三次推進計画の分析についてである。これは推進計画の第2章に当たる。主に分析の不足について意見をいただいた。評価指数に関する細かい分析ができていないところがあるという意見で、分析結果の記述については検討を進めていくという県の考え方である。本日、この意見を反映させた推進計画の案を用意してあるので、後ほど委員の皆様から意見をいただきたい。

次に、基本理念についてである。こちらは推進計画の第3章に当たる。「読書県『ちば』」をアピールし、他県とは違う政策を打ち出してほしいとある。県としては、読書県「ちば」をアピールし、県独自の取組についても推進していくという考えである。第四次計画のイメージ図「『家庭・地域・学校』の連携図に行政が入っていない」という件については、図の中に「行政」という言葉を入れようと考えている。

裏面をご覧ください。基本理念の説明で、「本の必要性」という言葉を「魅力」、「大切さ」に変更できないか、「その人々がもっている知識・情報・技能・思い・人間性」の「人間性」の部分を削除できないかという意見があり、県としては、基本理念の趣旨を踏まえ、記述内容を検討するという考えである。

次に、具体的な取組についてである。これは推進計画の第4章に当たる。「朝読書」の取組、「一斉」という言葉は強制的な取組であり、ふさわしくないのではないかという意見である。「朝読書」については、この取組でしか本に触れない子どももいる。読書の魅力に触れることができる取組であり、県内で多くの学校が取り入れている現状である。「一斉」という言葉は検討する必要があると考えるが、朝読書はこれからも推進していきたいと考える。なお、「全校一斉」という言葉は「全校を挙げて」に変更していく考えである。「全校を挙げて」という言葉は、以前から使用していた言葉でもある。また、朝読書は千葉県船橋市の学校から始まり、今では全国各地に広まって充実している取組でもある。

続いて、『図書館司書が選んだおすすめ本100選』というリーフレットのバージョンアップをお願いしたいという内容である。リーフレットは来年度から5か年の間に刷新する予定である。

「発達段階」という言葉を「成長段階」に変更できないかという意見であるが、こちらは国の基本計画に基づき、「発達段階」のまま変更なしと考えている。

最後に、推進計画全体に関する意見であるが、よく整理された計画であるという言葉をいただいた。

そのほか、全ての意見については、資料の2枚目、3枚目の両面に記載しているので、ご覧ください。

肯定的な意見を多数いただくことができた。

議長

それでは、ただいまの報告事項について質問、意見はあるか。

委員 リーフレットをバージョンアップすると伺ったが、おすすめ本100選のバージョンアップをお願いしたいと書いた理由はわからないが、この方がもし理由を書いているならば、その理由と、この意見によって刷新することにしたのか。それとも、もともと刷新する予定であったのかお聞きしたい。

議長 14番の意見についての質問であるが、事務局、いかがか。

事務局 こちらを刷新する予定はもともと考えていた。今、乳幼児期のものと小学生用のものの2種類あり、リーフレットを1つリニューアルするに当たり、2年間かかる。今、乳幼児用の刷新に取り掛かっているところであるので、終わり次第、小学校用を刷新するという計画で取り組んでいるところである。

委員 今回のリストは、とてもよいリストである。全面的に改訂してしまうということか。

議長 事務局、全面的に改訂してしまうのかということについてはいかがか。

事務局 全面的に変える予定ではない。もう一度、内容を見直すということである。

議長 そのほか、質問、意見はないか。

4 報告（2）その他

議長 (2)その他であるが、事務局から何かあるか。

事務局 特にない。

5 協議（1）千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）（案）について

議長 続いて、協議に移る。

協議(1)千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）（案）について、事務局からお願いする。

事務局 千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）（案）の冊子をご覧いただきたい。先ほどの意見募集、パブリックコメントの結果を反映させたものである。委員の皆様から意見をいただきたい点が5つある。

まず1点目、3～5ページに第三次計画の分析の記述を増やしたところがある。読書の好きな子どもの割合、不読率の割合、市町村推進計画策定率、学校図書館図

書標準を達成している学校の割合、図書館と連携している学校の割合について、意見募集の結果を反映しているので、後ほど意見をいただきたい。

2点目、9ページ、10ページをご覧いただきたい。こちらは第三次計画の分析結果をまとめたもので、課題についての項目が増えている。

3点目、12ページをご覧いただきたい。基本理念についてである。前回の読書部会のおかげから「読書県『ちば』」と「読書活動」という言葉が入れ替わっている。こちらは令和2年度からの第3期千葉県教育振興基本計画に合わせて、全ての子供が本に親しみながら成長していくための読書県「ちば」の推進に変更して、読書県「ちば」をよりアピールしている。下の基本理念を説明している文において、「本の必要性」という言葉を「大切さ」に変えている。4行目にも「本の楽しさや必要性」を「本の楽しさや魅力」とした箇所がある。こちらは赤字にするのを落としてしまっている。

10行目、「また、その人々がもっている知識・情報・技能・思い、人間性は多様で」という文章から「人間性」を削除し、「知識・情報・技能・思い等は多様で」としている。

また、第四次推進計画のイメージ図において、黒字ではあるが、社会全体の連携を表しているところに「県行政」と「市町村行政」という言葉を追加している。

続いて4点目、14ページをご覧いただきたい。前回の読書部会の際に読書バリアフリーに資する図書の評価指数について意見をいただいた。こちらは、その後、図書館職員とも検討したが、調査項目や調査の方法について十分に検討する時間が必要であり、今回の評価指数には入れないことにした。ただ、来年度、読書バリアフリー法に関する国の計画に基づき、県の計画を作成することになると思うが、そこで読書バリアフリーに関する図書について触れることができると考えている。

最後に5点目、補足資料編35ページから37ページに県の学習指導課が作成した学校図書館自己評価表について記載した。ここでは小学校用を載せている。

以上、意見募集の結果を反映した点についてお伝えした。

議長

ただいまの事務局の説明内容について、質問等はあるか。

それでは、今、5点について協議ということであったので、1点目から進めていきたい。まず1点目、3～5ページのところで、パブリックコメントで出てきた意見を反映して分析結果を細かく載せたということがあり、赤字がたくさん入っている。この内容について、何か意見、質問はあるか。細かく分析されていてかなりわかりやすくなったと思う。

委員

3ページの下赤くなっている部分の「全く読書をしない理由として」というので、『時間がない』『面倒だ』『文字が多い』『興味がない』等、読書に対して否定的なものが予想できます」とあるが、大人側からの意見が反映されたというものの中にはあったが、実際に子どもの意見というのはどういうところなのか。リサーチす

るかどうかは別として、興味として、ここに挙がってきている、年齢が上がるにつれて読書離れがあるということについて、実際、子供たちはどんな思いでいるのかというところもより一層知りたくなつたというのが、これを読んでいてもった感想である。

議 長 この計画案には何か反映したほうがよいという意見か。

委 員 そこまでではないが、実際に当人の子どもたちはどんな意見をもっているのだろうと、より一層知りたくなつたところである。

議 長 計画案のほうはこのままでよいが、今後、計画を推進していくに当たって、子供たちの意見、思いみたいなものも探っていくと、またその後が続くのではないかという意見として受け止めてよいか。計画案のほうはこのままでよいかと思う。

委 員 「全く読書をしない理由として」の言葉であるが、子供たちは実際、一番多い理由が面倒くさいである。何が面倒くさいかということ、文字を読むことが面倒くさい。「文字を読むのが面倒だ」という言葉のほうがより具体的になる。文字の多い少ないではなくて、「文字を読むのが面倒だ」というのが、子供たちにいつも接している者としては一番よく聞こえるものである。

議 長 「面倒だ」というところを、「文字を読むのが面倒だ」という文言にしてはどうかという意見であるが、事務局のほうで検討していただけるか。

事務局 まさにその通りだと思う。実際、活字離れが進んでおり、「文字を読むのが面倒だ」ということが適当であると考える。

議 長 その部分については、直すということによいか。

事務局 はい。

委 員 高校で勤務しているので、ここにはない生徒の意見として、「本が身近なところにない」というのがある。ここに書いてないが、「経済的な事情で本を買ってもらえない」、「公共図書館に行く手段がない」ということで学校図書館しかないが、幼児期に本に触れる機会がない、身近なところにないために学校図書館の存在に気がつかないということもある。これは、参考意見である。

議 長 そういうことも入れた方がよいということか。

委員　　もし生の声をというのであれば、本に触れる機会がなかったというのはよく生徒から聞く話であるので、ここに当てはまらない、本そのものを全然知らないという生徒もいるということである。本があっても面倒とか、文字に興味がないとかではなくて、そのもっと前の段階のほうである。

議長　　触れてこなかったということか。

委員　　幼稚園にも保育園にも行ってない。

議長　　事務局、いかがか。これは、ここに入れたほうがよいというよりは、そういうこともあるということか。

委員　　参考意見として。

議長　　参考意見としてということである。

委員　　ここには入っていないと思った。

議長　　入れたほうがよいか。

委員　　私が接している生徒は小中学校の中で1割ぐらいの子供たちになると思う。先生方の中で目立たないというか、気が付かれないような感じになってしまうので、入れるかどうか。ただ、参考意見として、そういう子もいるということである。当然、公共図書館には行かない。

議長　　事務局としては何かあるか。

事務局　　子供の手が届く場所に本があるというのは狙いとしてもあるので、よく検討していきたいと考えている。

議長　　検討していただくということをお願いします。
そのほか、3～5ページのところについてはどうか。

委員　　赤い文字で補足された部分が、私は中学校勤務であるので、中学校からの観点で見ると、中学がこういうことだということは足されているので、とてもありがたいと思った。今まで2回の中で意見が出た部分がこちらには反映されていると感じたので、このままあるとうれしい。

議長 よく反映されているということで、そのほか、あるか。今、修正する点もあったが、その辺は直していただくということである。

2点目、9ページ、10ページの分析結果を踏まえて課題が増えている。分析結果から課題につながっているということであるが、課題が増えている9ページ、10ページの内容について、意見はいかがか。

課題が増えたようではあるが、きちんと細かく分析された結果の上の課題ということで、次の取組につながって、とてもわかりやすくなったかとは思いますが、賛成意見、反対意見等、もしあれば出していただきたい。

委員 賛成である。かなりわかりやすくなった。どこという部分的なところはわからないが、課題というのが例えば表になっていたとして、それをもっと具体的にわかりやすくしたのがこの文だと思うので倍以上になっているとは思いますが、1つ1つがわかりやすいので、とてもありがたい。

議長 何かあるか。

委員 とてもよい。特にエの「学校長のリーダーシップのもと」のところが非常によいので、ぜひ、このところは校長会等で読み上げていただきたい。

議長 課題がとてもよいということで、このままということでよいか。

委員 はい。

議長 では、3点目12ページ、読書県「ちば」の推進ということで、より読書県「ちば」をアピールしたということで、文言の入れかえをしたというところで赤字に変わっている。それから、楽しさや魅力、必要性、大切さということで、パブリックコメントの意見を受けて多少文言を変えているということであるが、このことについてはいかがか。読書県「ちば」をアピールしたというところでは大変よいと思うが、これについては、特に反対意見、追加意見等もないか。「楽しさ」や「魅力」という言葉もとてもよいと思うので、このままの変更でお願いしたい。

4点目14ページ、バリアフリーの評価指数について、前回の会議では何かしら入れていったほうがよいのではないかという意見を出していたかと思うが、今、事務局からの説明もあったように、来年度、読書バリアフリーの計画が県のほうでも策定されるということで、そちらに読書バリアフリーに関する評価指数は載せていくことになるので、今回の第四次（案）では、読書バリアフリーに関しての指標は特に載せないと先ほど説明があった。この後、全くないということではなくて、来年度できる計画のほうにまた詳しく載ってくるということで、それがよいのかと思うが、委員の皆様からの意見はいかがか。あえて今回、ここで何かを載せて、

また次の計画で違いというか、ずれてもいけない。

委員 バリアフリーの補足資料編として32ページに書いてある。これは、この次に考えていくということで、補足資料編ということか。

議長 14ページでは、特に読書バリアフリーに関する目標数値は出さないが、推進としては、読書バリアフリーについては今回新しく入れ込んだ内容でもあるので推進はしていくということであるが、目標数値は入れないということではいかかというところである。推進していく内容については、ここも力を入れていく新しい項目ではある。皆様、いかがか。

委員 このままでよいと思う。

議長 では、評価指数については、今回はここには入れないということをお願いする。5点目35ページから37ページに載っている学校図書館自己評価表を載せたことについて、何か意見あるか。

委員 前回も自己評価表を活用しているので注目されるとよいという話はしたが、前回、ここに載せるという話はなかったと思うので、今回、ここに補足資料として入ってきたのは、どういう経緯でこうなったのかを伺いたい。

議長 経緯について、事務局のほうで説明をお願いしたい。

事務局 具体的な取組の中で自己評価表については触れているが、実際、どんな取組の項目があるのかという意見を多数いただいた。そこで環境整備の観点からも、評価基準というのを載せたほうがよいのではないかと考えた。ただ、具体的な取組、4章の中に入れるものではなく、あくまでも紹介するという意図で補足資料に入れている。

パブリックコメントでも同様、この自己評価表について、もう少し具体的に載せることはできないかという意見もあったので、その意見を反映した。

議長 パブリックコメントの意見を反映してとのことである。

私から1つよいか。小学校用となっているが、では、中学校用は別にあるのかと疑問も出てくるが、小学校用と中学校用の違いはあるのか。事務局、お願いします。

事務局 「児童」が「生徒」になっている。ただ、項目に関しては、小学校だから、中学校だからと大きく変わるというものではない。この1つ1つの項目を見ても両方に該当する。また、小学校から中学校の連携の面に関しても、小学校と中学校、両方

載せると相当な量になってしまうので、今は小学校にしているが、ぜひ、委員の皆様からも意見をいただきたい。

委員 このトライアルシートの項目自体を検討するという計画はあるのか。

事務局 これは令和元年版である。学習指導課が担当しているもので即答はできないが、話の中では、見直していく必要もあるということがあった。また、この中に「一斉」という言葉が入っているが、今、その「一斉」というものを「全校挙げて」と変えるかどうかというのも検討しているところである。

委員 小学校と中学校では、学校図書館という意味において変わりはないと思う。義務教育の学校図書館ということで同じだと思うので、あえて小学校用、中学校用と分ける必要はないのではないか。義務教育としての学校図書館はこうあるべきだと、もっと根本を押さえたトライアルシートのほうがよいのではないか。

36ページ(2)のベーシックシート、物的環境の3番、「教職員が教材研究等で活用できる図書が整っている」という項目であるが、児童生徒が使う図書に限ってのことだと思うが、教材研究で使うとなると、教材研究用の図書というのはたくさん出版されているので、わかりづらいと思う。これはあくまでも児童生徒が使えるための図書に限っての設問だと思うので、この言葉自体がわかりにくい。要するに児童生徒が教科で活用できる図書が整っているという意味ではないかと思う。教材研究で使う本となると、とても曖昧になって、受け取り方が人によって違ってしまふ。細かいことをもっと検討していったら、これはどうなのだろうかと思う点があるので、今回はこの点を検討する場ではないが、項目の検討をまたお願いしたい。

議長 この内容については学習指導課が作成しているものであるので、今回、この場で内容そのものを検討する場ではないとの発言があったので、内容については、また学習指導課に伝えていただき検討していただくことにして、このトライアルシートを載せることについては、小学校、中学校という書き方をするのではなくて、学校図書館、あるいは小中と学校図書館のトライアルシートという形で、中学校は児童が生徒という記入にしておけば、小中学校で使っているということでもわかりやすいとか、疑問をもたなくてよいかと思うが、別の委員の皆様いかがか。

委員 35ページの物的環境の3と先ほどの36ページの物的環境の3は同じであるが、教材研究等に活用できる図書と、もし高校の先生がこれを目にしたときには非常に難解な生徒が読んでもわからないような本が整ってなければいけないのかなと考えてしまうものが増えてしまう。逆に生徒の意見や生徒が必要とする本を選書する項目がないように思った。つまり、先生方が集まって選書するような会議の項目がないのかと思った。教材研究に関しては県立図書館との連携が充実している

ので、そちらでお借りすることで十分対応できているが、全く本に触れる機会がなかった生徒が学校図書館で初めて本に触れる。それこそ児童書から高校生が読む本まで幅広く触れて、そこで初めて本の楽しさを知るような感じがあるので、それに関する項目が何かあるとよいと思った。

議長　これは学習指導課に伝えていただくということでしょうか。皆さん、これを載せることについてはよいのか。

委員　トライアルシートとベーシックシートがあって、まず、ベーシックシートをクリアした学校がトライアルシートに行くわけである。そうすると、ここは順番が逆でもよいのかと感じたが、いかがか。

議長　今の意見について、順番としてはベーシックが先のほうがよいということで、あえて先にトライアルシートがある意図があるのか。

事務局　数値目標の評価指数については、14ページに優秀・優良学校図書館の学校の割合を示している。今の意見のとおり、やはりベーシックから入るほうがよいと考えたが、この文言に合わせて変えたということがあった。実際にはベーシックが先にいくほうが、手引として考えたときにはよいと感じた。

議長　優秀・優良学校の図書館の学校の割合というところから先にトライアルシート、ベーシックといきたいということであるが、手引として、これを手にとった人が読んだときには、やはりベーシックが先にあって、トライアルシートが次にあったほうが見やすいとは思う。こちらの優秀・優良学校図書館は、そのままでも構わないと思うが、トライアルシートの順番は入れかえるということではいかがか。

委員　4の自己評価表の下の「各小学校、中学校において、優良学校図書館認定や優秀学校図書館認定」と、ここも優良があって優秀が来ているので、ここだけを見ることを思えば優良、優秀で、その下のトライアルシートとベーシックシートの説明も逆にさせていただいて、流れもベーシックからトライアルにさせていただいたら、この部分で言うと、共通して流れがつかめると思うが、いかがか。

議長　4番の項目のところか。

委員　優良、優秀になっている。

議長　大きな文字で「優良学校図書館認定や優秀学校図書館認定」という文になっているので、その下の優秀学校と優良学校と小さくなっているのを入れ替えて、優良が

先で優秀にして、次に紹介もベーシックでトライアルという順番はいかがかということである。事務局、いかがか。

事務局 今の意見のとおり、35ページの4番のところに出てくるのが、優良が先に出て優秀、それに合わせる。下の(1)と(2)を変えた形で、35ページ、36ページは準備したいと考える。14ページの資料については、このままの表記で優秀・優良でやらせていただきたい。

先ほどから出ていたトライアルシートについては、まだ課題があるという意見を伺ったので、確実に学習指導課にもう1度話をさせていただく。小学校用、中学校用というところは、表記を考えて混乱が出ないようにしたいと考えている。

議長 事務局、ここは検討をお願いします。

そのほか、何か意見はあるか。事前に読んできてはいただいたと思うが、事務局から挙げた検討項目以外のところで、気になったところがあれば挙げていただきたい。

委員 「学びの早道」の案内が前回あったが、今回はなくなっている。昨日、鎌ヶ谷で研修があったが、今年度取り組んでいる学校が鎌ヶ谷市内にあったが、次のような事案があった。「学びの早道」というのは冊子にはならないと聞いたが、県のほうからは案内が出るので、いろんな学校の取組をぜひ参考にしてほしいという話が学習指導課からあった。計画にはなかったが、なぜか。

事務局 当初は具体的な取組の中でも「学びの早道」のことは記載していた。学習指導課の来年度の事業のことで、予算等の関係もあり、「学びの早道」がなくなる。それに替わった事業として、今、新任校長の研修だとか、ほかにもいろいろ考えているようであるが、ただ、「学びの早道」がなくなったことで、より読書活動について充実した取組ができないかということで、生涯学習課が主催している8月の公立図書館と学校の連携を図るための研修会があるが、学習指導課と連携して、もっと地域の課題に応じた研修に内容を変えていく予定である。

議長 では、計画案の内容については、委員の皆様、よいか。文言等を訂正するところや検討することの内容について、事務局のほうでよろしくお願ひしたい。

5 協議 (2) 千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)概要版について

議長 続いて、協議(2)に移らせていただく。協議(2)千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)概要版について、事務局からの説明をお願いします。

事務局

第四次推進計画の概要版についてである。こちらは令和2年度初めに印刷し、おおむね5カ年にわたって使用するものである。県としては、このリーフレットで第四次推進計画の概要を、会議や研修会を通じて市町村行政や関係機関に伝えていく。各学校にも配布する予定である。また、子供の読書活動に携わる方々がこのリーフレットを参考にできるようにという狙いもある。その点を踏まえて意見をいただければ幸いである。

第四次推進計画から新たに取るものに関しては、赤字にし、下線を引いている。1つ懸念しているところがあるが、赤字にすることで、第四次計画の特色は一目でわかりやすいが、赤が強調され、ほかの取組が弱く感じるようにも思う。確かに第四次の特色であるが、ほかの取組と並列なものと考えており、強調の具合が難しいと感じた。率直な意見をいただきたい。

もう1枚別の資料で、「千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）趣旨説明資料」がある。こちらは推進計画策定の流れや第四次計画の特色を説明するために使用する資料である。裏面に第四次計画の特色を記載しているが、こちらは新たな取組を赤にしておいてよいのかと考える。この資料は広く配布するものではなく、趣旨を説明する必要がある場合に使用するものである。

議長

ただいま事務局から概要版についての説明があった。その説明の趣旨を踏まえて意見をいただきたいが、概要版はまず皆さんが先に目に触れるものかと思う。そうしたときに第四次計画の目玉というか、今回新しく入った取組をわかりやすく赤字にして下線が引いてあるが、そこだけに目が行ってしまうことが懸念されるという説明があった。これについて、委員の皆さん、いかがか。

赤字と下線だけだと本当にこれが浮き出てしまうので、黒字で下線にしたらどうかと事務局のほうに話をしている。ちょっと見比べていただいて、また意見をいただければと思う。

赤字がこういうふうになったということであるが、何が変わったかというのを考えるときには、もちろん赤字のほうがぱっと目に入ってくるが、そこだけを強調するのではなくて、どの取組も並列して取り組んでいることだということ。手引の性格をしっかりとわかってもらうためには、強調し過ぎがかえって弊害になるのではないかということがある。黒字であるが、下線をしたほうがよりわかりやすいかどうか比べてもらって意見をいただこうと思ったが、ビジュアル的な問題かもしれない。事務局、お願いします。

事務局

1つ追加させていただく。見開き左のページであるが、5番、主な取組と指標の中でも、実は下線が出てきている。これは新しい取組とは全く別なもので、落としていたが、一番左の青いところであるが、特に意味がなく、ただ強調したかっただけなので、ここの下線は必要ないと思う。

また、右の表の中での下線であるが、色は比べてみると、やはり黒のほうがよい

と感じているが、罫線とかぶる部分もあるので、例えば波線にするとか、そこは幾つか線を変えて試してみようとする。

議 長 線の種類については事務局にお任せしたいと思うが、いかがか。

委 員 これはそれでよいと思うが、左の一番下の赤枠の中は赤字でそのままか。

事務局 もう1度黒にして見比べてみる。そこで左下を黒く塗るのか、赤で強調するかというのを判断したい。

議 長 確かにここだけ赤になると、どうかと思う。ここは検討してほしい。

委 員 右の⑤の線の引いてあるところの優秀・優良学校図書館という言葉も、やはり逆になるのか。

議 長 黄色いところについての評価は優秀・優良のままでということである。

委 員 字体であるが、丸ゴシックを使っているところが少しあるが、ユニバーサルデザインの字体のようなもので進めたほうがよいと思うが、いかがか。つまり字が潰れて見えるとか、わかりにくい字だったりすることがあると思うので、その辺を伺う。

議 長 字体については、事務局のほうで検討していただきたい。

委 員 赤字と黒字というのは、どちらでもよいという感じではあるが、どこを見てもらうかというところで、素人目で見ると、右下の第四次の特色はというところがしっかりと打ち出されているので、ここさえしっかり見てもらえば、前の計画からここが変化したところであると思いき着くのかなと、自分の見方としては、そう思った。黒字のままでよいと思う。

議 長 では、黒字で、線の種類と、それから字体も少し検討していただいて、わかりやすく見やすいものにしていただきたい。概要版について、今の意見を反映させてほしい。

5 協 議 (3) その他

議 長 協議(3)はその他であるが、事務局から何かあるか。

事務局 特にない。

議 長 以上をもって本日の協議を終了し、議長の任を解かせていただく。

6 諸 報 告

7 閉 会